

森の楽しみアラカルト

夏の編

けだるい足取りで、蝉時雨の坂道を登る。
吹き出る汗を赤松と白樺の林をわたるそよ風が拭ってくれる。

疲れを癒すため、木陰のベンチに寝ころがる。
緑豊かな木の葉たちが、照りつける太陽を
美しい宝物“木漏れ日”に変身させる。

横たわったままで、空を見上げ耳を澄ませると
風にそよぐ木の葉たちの歌声が響き、木漏れ日が降り注ぐ。

そよ風に唄う木の葉の歌は、潮騒だ。
そよ風に揺らぐ木漏れ日は、波間にきらめく太陽だ。

森を恋し、海を想う私の心は、
見事にフィトンチッドのマイコントロールを受けている。
そして、深い睡魔が私を襲い、横たわった私の体は森と同化する。

冬の編

ここは、「風早」と呼ばれている。
冬の季節風が竜馬たちの脱藩した“維新の道”を逆走し、
公園の木々たちに襲いかかっている。

もう、木々はすっかりと葉を落とし、
北風を耐え忍ぶ身支度を終えて、来るべく「春」を待ちわびている。

ここで最も好きな木は、きつつき学習館側に根付いたケヤキの株だ。
あちこちの枝を切り取られながらも、
己の力でその傷口を癒しているその大きな株。
北風にさらされるまま、じっと季節の移ろいを待つかに見える
その内には、ワインレッドの美しい新芽を萌えさせようと
春に向けてのエネルギーを蓄積している。
この切り株に、「生命（いのち）」を感じずにはおられない。

総集編

季節の移ろいに逆らうことなく様々な彩りを演じ
成長を止めない太郎川公園の木々たち
彼らは、私の心を癒し、明日へのエネルギーを与えてくれる。

彼らに誘われ、私は、森に出かける。
来る年も、来る年も、飽きることなく。

私たちが暮らす高知県は、県土の84%が森に覆われています。
このみどり豊かな土地で、古くから人は四季折々の森の美しさを楽しみ、
山の幸を味わい、暮らしに木を取り入れ、子孫のために森を育てながら
生きてきました。

人と木の共生。この素晴らしい伝統を現代風にアレンジし、木を育て、
木に親しみ、木を生かす、「木の文化」として次の世代に伝えていきたい
と思います。

一部の山が荒れ、暮らしの中に木が少なくなってきた今だからこそ、
私たちは改めて、「木は私たちのパートナー」と訴えたいと思います。

高知の樹木たち その3 ● 太郎川公園の樹木

太郎川公園の樹木

森からはじまる



木の文化県
こうち